

## 資料室だより 135

Le Llibre Vermell de Montserrat (XIVe siècle) Par Jacques Viret

Anthologie chorale du Moyen Age, 3 (Edition a Coeur Joie)

「モンセラート朱い本」というきわめて貴重な14世紀の大型ミセラニー写本がスペインのカタロニア、モンセラートにあるベネディクト会修道院で編纂され、現在も同修道院の図書館に保管されています。そのなかに楽譜が数フォリオ所収されおりこの数フォリオは10曲の美しい中世歌謡（マリア賛歌）です。作者もベネディクト会士ですがフランシスコ会の影響を濃厚に受けながら作成された民衆的宗教歌謡です。つまり正規の典礼の中では歌われない巡礼歌で（聖堂内で歌うことは許されている）、モンセラートに巡礼に来る人々の信仰教育、また慰めのためにサンタ・マリア・モンセラート修道院で作成されたものです。

ラテン語中心に、カタロニア語、オック語で書かれ、カノン（2声、3声）、単旋律、3声ポリフォニー、各声部異なるテキストを歌うモテトゥス様式もあり、非常に興味深いものです。その写本と解説楽譜、注解（フランス語）から成るのが本書です。

「手をつないで輪になって踊りながら」、という指示がある舞踏歌が3曲あり、宗教舞踏の貴重な例でもあります。宗教舞踏は後に禁止されましたが、モンセラートの巡礼者たちの輪舞はおそらく、よりソフィストケートされた踊りを模倣し、マリアに捧げられたこれらの踊りは中世の間教会内で踊られた一般的な実践に関係することも確かです。

10曲のうち9曲目までが聖母を讃える賛歌で、最後の10曲目は「死を想え」メメント・モリの内容となっている舞踏歌、まさに Totentanz です。「死をめざしてわれら走らん」というリフレインを持ち、楽譜の下には棺に横たわる骸骨の図像と共に「なぜおごりたかぶって生きるのか？ なぜ安楽を求めるのか？ なぜ罪を悔い改めないのか？」という警告の言葉が7行にわたって記されています。興味深いことに、この歌はラテン語ですが、原曲はバレンシア語でモレーリャのフランシスコ会修道院の Sala de profundis という一室の壁に直接記されたもので、「死の舞踏」の図像とともに記譜されています。あまりにも辺鄙なところにあり交通手段がほとんどありませんので訪れる人も稀ですが中世の旋律がくっきりと記され、地元バレンシア語で様々な警告の言葉、悔い改めを迫る言葉が書き記されています。ここも山の高いところにあり、山から山へ伝承された、またフランシスコ会からベネディクト会へ、という伝承経路も興味深いことです。

(杉本ゆり 記)